

農業との出会い



自然を相手に することは、

雑木林から圃場へ (ゼロから始める開墾作業)

普段は手技療法院の院長を務めている藪本さん。今から数年前、本職の傍ら、農業公社でアルバイトを始める決意しました。それまで農業は全くの未経験だった藪本さんでしたが、「農作物を育ててみたい!」という気持ちちは、人一倍強かつたようです。

「やつぱり作物や土に触れるといふのは、とても良いことだと思

います。癒し効果も期待できます

ね。」

藪本さんはそんな自分の人生の転機となつた農業に対する魅力を語ってくださいました。

そこから藪本さんは5年ほど農業公社で箕面市の学校給食に出荷する作物を育ててきました。そして2020年の4月、新稻地域で新たに圃場を借りた藪本さん。これまでの経験と農業に対する愛情を武器に、新たなスタートを切りました。

ど、やつぱり自分の手で圃場を開墾させてもらえてよかつたと思っています。達成感もさることながら、愛着も出でてきますから(笑)』

圃場を借りた藪本さんでした
が、ここで一つ問題が。借りた当初の圃場は長らく使われていなかつたため、雑草と雑木が生い茂つていたのです。

チエーンソーを使い、木を全て切り倒し、根を掘り起こして、さら

らに土を耕して…・・藪本さんは広さ一反ほどもある圃場の開墾作業をたつた一人で行つたそう。

切り倒した後の木は、さらに細かく切り分けて、クリーンセンターに運ぶ作業も大変だったといいます。

「最初はめっちゃ大変でしたね。」
冬場はキャベツ、カリフラワー、小松菜、ほうれん草などを栽培されている藪本さん。中でも主力の作物は人参です。現在、3種類の品種を中心に栽培されています。

今後の目標

そんな藪本さんが手塩にかけて開墾した圃場では、鮮やかな色合いの作物が、元気よく育っていました。

今年は規格外の野菜が多くなつてしまい、あえなく廃棄になつてしまつたものもありました。今年は規格外の野菜を減らせるように、種まき、植え付け時期に特に気を付けたいですね。と今後の意気込みを語つてくれました。

来年はカラ一人参やスティック人参などの変わり種の品種にも挑戦するそうです。

「昨年は規格外の野菜が多くなつてしまい、あえなく廃棄になつてしまつたものもありました。今年は規格外の野菜を減らせるように、種まき、植え付け時期に特に気を付けたいですね。」と今後の意気込みを語つてくれました。

直売所にお越しください いる皆様へメッセージ

いつも直売所の野菜をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。自分が作った作物を手に取つて食べてもらえるのは、やっぱりとても嬉しいです。日々の農業の励みにもなりますし、フルーツの削減にも繋がると思っていました。これからも美味しい野菜をお届けできるよう努めてまいりますので、みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

【主な栽培品目】 春 玉ねぎ・人参 夏 キュウリ・ミニトマト・じゃがいも 秋 サツマイモ 冬 人參・キャベツ・カリフラワー他



元来いちばん
人間らしい生活だと
思っています。

地域の農を支える生産者

箕面市新稻地域

やぶもとあきや

籾本明也さん
(62歳)



自宅横にも圃場を所有しています。